

重要伝統的建造物群保存地区「白峰集落」の活性化に向け、
地域特性を活かした魅力あるまちづくり（日本のモデル山村を目指して）

指導教員 金沢工業大学 環境・建築学部 教授 谷明彦

参加学生 岩坂みづき 他 5名

1. 調査研究成果要約

今年度、本研究室では昨年度までの活動を継続し、住民の方へ引き継ぐことを目的に活動を行ってきた。本研究室の終了に伴い、研究室による白峰地区でのまちづくり活動も最終年度であるため、住民主体での活動を推進する狙いである。約 10 年間の継続的な活動により観光客が増加し、住民・行政のまちづくり活動が活発化している。さらなる活性化にむけ、白峰地区に存在する地域資源の活用が重要となる。

2. 調査研究の目的

本研究室の活動は今年度で 11 年目となる。活動を開始した当初は、古民家再生のモデルとして改装した雪だるまカフェを活動拠点とし、目に見える活動を行うことで住民からの信頼を得てきた。地区のまちづくりに対する意識が向上し、住民組織が発足したことで活動がさらに活発化した。その結果、2012 年の重伝建選定につながり、白峰を訪れる観光客は年々増加している。重伝建選定後は、「経済の活性化」を目標に活動を行ってきた。

今年度は、本研究室による活動の最終年度ということで、まちづくり活動を衰退させないために、住民主体での活動へ移行する必要がある。そのため、これまでの活動を継続しつつ、住民の方への引き継ぐことを主な目標とした。



図 1 雪だるまカフェ



図 2 白峰全域模型作成



図 3 空地整備



図 4 空家の活用（雪だるまスポット 1）

3. 調査研究の内容

活動を行う上で、主に 2 つの方法を用いて調査を行った。1 つ目に文献調査である。白峰の歴史や現状を調査した。2 つ目に現地調査である。本活動は学生だけでは進行できないため、住民や行政と信頼関係を得ることが重要である。白峰地区でのまちづくり活動の方針を統一するための提案や意見交換を行った。また、これまでの活動を総括するため、住民の方へヒアリング調査も実施した。以上の方法より、今年度の活動は住民の方への引き継ぎを目指した。主な活動スケジュールを表 1 に示す。



図5 文献調査



図6 ヒアリング調査

表1 年間活動スケジュール

日付	活動内容	日付	活動内容
4/21	第1回 打ち合わせ	11/5	温泉まつり 支援活動 第3回 整備活動
5/22	第2回 打ち合わせ		
5/28	若葉まつり 支援活動	11/15	第4回 整備活動
6/28	第1回 整備活動	2/2	雪だるままつり
7/15	白山まつり 支援活動 オープンカフェ実施	今年度中 (予定)	伝建審議会 参加 第3回 打ち合わせ (引き継ぎの完了)
9/28	第2回 整備活動		

4. 調査研究の成果

今年度の活動は、大きく3つに分類できる。それぞれの活動について以下に示す。

◆魅力向上に向けた活動

具体的な活動内容は、雪だるまカフェ・ガーデンの整備、石積緑化である。

雪だるまカフェの整備では、従業員との打ち合わせ時に要望として挙げたのれんのリニューアルとお土産の補充を行った。のれんは、カフェの看板文字と雪だるまのキャラクターを用いたデザインにし、さらに古民家に合う落ち着いた色合いにすることで、店先の統一感を目指した。

雪だるまガーデンの整備では、カフェからの景観配慮と来村者の利用促進を目指し、ミカゲ石の設置、玉竜から芝生への植替え、犬用トイレの改善を行った。ミカゲ石は、地面がむき出しになっている箇所にも補充する形で設置を行った。ミカゲ石の部分が增多することで、ガーデンの景観が向上し、除草作業も軽減される。玉竜から芝生への植え替えについては、昨年度まで補充を続けていた玉竜の一部が冬季の雪の影響で枯れていたため、寒さに強いと言われる野芝を植えた。今回は試験的に行ったため、特に玉竜が枯れている場所の一部だけを植え替えた。犬用トイレは、昨年度作成したものを改善するため、作り直しを行った。また、植栽してある玉竜や芝を雪の重みから保護



図7 のれんのリニューアル



図8 ミカゲ石の設置



図9 ミカゲ石の設置後



図10 犬用トイレの改善



図11 芝生の植え付け



図12 石積緑化

するために、冬季は簀の子を敷いた。

雪だるまカフェ・ガーデン整備は、今後も継続して行う必要があるため、雪だるまカフェの従業員の方に引き継いでいる。

石積緑化は昨年度までの活動を継続し、石積の改善・景観向上のためセダムの植え付けを行った。

◆情報発信に向けた活動

白峰の情報源や白峰に興味を持つきっかけとしての情報が不足していたため、昨年度、Facebook ページ「雪だるまカフェ（石川県白山市白峰地区）」と、投稿・運営などの方法のマニュアルを作成した。Facebook のメリットとしては、ホームページと比較した際に、更新が手軽さ、管理のしやすさなどが挙げられる。ここから、白峰の日常風景、カフェの商品やお祭りの情報などを投稿し、外部へと宣伝・告知をしていくことを目的とした。

今年度は、Facebook ページの改善と、2種類のマニュアル「登録・利用の手引き」、「管理・編集の手引き」を作成した。具体的なページ改善の内容は、アイコンとカバー写真の変更とノートへの投稿である。アイコンは白峰のロゴマークへ変更し、カバー写真は昨年度のものをより良くするため、白峰の景観と本研究室の活動が分かるような写真の選択・配置をした。ノートには、本研究室の活動や白峰の歴史などを簡潔にまとめ、投稿した。ページの閲覧者に白峰と本研究室について知ってもらうことが目的である。現在は、主に学生が管理・投稿しているが、作成したマニュアルを配布し、引き継ぎを行う。

また、今年度も観光客の方に白峰の自然や町並みの素晴らしさを伝えるために、2015 年度にドローンで上空から撮影し作成した PR 動画を雪だるまカフェで流している。



図 13 Facebook 利用マニュアル



図 14 リニューアルしたカバー写真

◆住民との連携に向けた活動

具体的な活動として、まちづくり関係者との打ち合わせと地域行事への参加を行った。本研究室の活動は学生、住民、行政の三者が協働して行っている。三者間の信頼関係を築き、足並みをそろえ方向性に相違を生じさせないことが重要となる。そのためにも、打ち合わせは意見交換の場となり有効な手段である。さらに、地域行事に参加することで、より多くの住民と面識を持つことができる。今年度、若葉まつり、白山まつり、温泉まつりに研究室として参加してきた。白山まつりでは、雪だるまガーデンにてオープンカフェも行った。今後、2月2日に開催される雪だるままつりにも本研究室は参加する。

また、今年度中に予定されている伝建審議会に参加する際に、第3回打ち合わせの場を設け、本研究室のまちづくり活動の引き継ぎを完了させる予定である。



図 15 若葉まつり支援活動



図 16 白山まつり
オープンカフェ



図 17 温泉まつり支援活動

5. 来年度の調査研究計画

建築系の研究室としての活動は今年度で終了するが、来年度からは、大学の他部門との連携でまちづくり活動を継続していく予定である。今後も、雪だるまカフェ・ガーデンの整備活動や外部に向けた情報発信などが必要である。加えて、住民主体での活動を推進するために、住民主体のまちづくりに向けたアドバイスを行っていく方針である。

6. 調査研究に対する地域からの評価

◆小田吉一氏

小田吉一氏は、白峰地区の現区長であり、地区の住民として大きな発言力を持つ方である。以下、約10年間に渡る本研究室の活動に対するヒアリング調査より得た意見である。

10年前と比べて観光客が増加し、最近では団体客も増えている。雪だるまカフェやガーデンなど、こまめに整備活動をしてくれた。できたこと・できなかったことがあったが、谷研究室の活動が地区の景観向上や活性化につながったし、いい方向に向かっている。若い人の協力が増えて地区の雰囲気も明るくなった。今後も、活動を継続しつつ身近なところから始めて、さらなる活性化につなげたい。

◆永吉照子氏

永吉照子氏は、雪だるまカフェの従業員であり、谷研究室の活動に長年協力してくださっている方である。以下、約10年間に渡る本研究室の活動に対するヒアリング調査より得た意見である。

最近では団体客や家族連れ、海外からの観光客も見かけるようになった。雪だるまカフェやガーデンも整備活動によって年々良くなり、非常に助かっている。学生が優しく、頼りがいがあったので、身近な存在に感じられた。谷研究室のまちづくり活動で、街並みがきれいになったし、活気も出た。今後は、このままカフェを継続していきたい。

観光客の増加や地区の活性化を非常に実感しており、本研究室に対しての評価も高く、良い影響をもたらしているといえる。今後は、住民主体で活動を継続していくことが必要とされる。